

注射針製造の手島精管



小ロットの製品受注に対応するため新築した手島精管の本社工場

注射針などステンレス製細管製造の手島精管(手島三三男社長)は、館林市足次町の本社工場を同市下早川田一町に移転新築した。市

今月上旬に移動した。

を指す。また、20

内の別の場所にあった第2工場も集約して効率化を図るとともに、増加傾向にある小ロット製品への対応力を強化。新規分野への参入も視野に順次、設備増強を進める。

旧本社工場と第2工場は売却する。ステンレス製の注射針製造を得意とする同社だが、最近では医療用機器や工業用機器に使われるパイプなど小ロット製品の受注が増加。付加価値が高い少量多品種の製品製造に柔軟に対応できる体制整備の一環として、管を伸ばす機器などを導入している。

今後は管の内部を鏡面のように滑らかに加工する機器の購入も計画、血液分析器に使われる鋼管への参入などを指す。また、20

工場集約し効率化

小ロットの対応力強化

09年に米国に開設したマーケティング会社を活用して、グローバルな販売を強化する。同社は1970年創業。89年には韓国に現地法人を開設、海外にも積極的に展開している。売上高は約10億円(2012年8月期)、従業員は約40人。